

地域密着型特別養護老人ホームわかば

令和 8 年度 第 3 回 運営推進会議

|        |        |                                                      |  |                         |  |
|--------|--------|------------------------------------------------------|--|-------------------------|--|
| 開催日時   |        | 令和 8 年 6 月 24 日(水)                                   |  | 午前 1 1 時～午前 1 1 時 4 0 分 |  |
| 開催場所   |        | 特別養護老人ホームわかば 1 階 会議・研修室                              |  |                         |  |
| サービス区分 |        | 地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護                                 |  |                         |  |
| 出席者の状況 | 委員（職種） | 委員数（1 0）名／出席（1 0）名                                   |  |                         |  |
|        |        | （利用者代表）                                              |  | （家族代表）                  |  |
|        |        | （地域代表）                                               |  | （市町村職員）                 |  |
|        |        | （第三者委員）                                              |  | （知見を有する者）               |  |
|        |        | （第三者委員）                                              |  |                         |  |
|        | 職員（役職） | （特養わかばイースト施設長）                                       |  |                         |  |
|        |        | （特養わかば生活相談員）                                         |  |                         |  |
|        |        | （特養わかば施設長）                                           |  |                         |  |
| 報告事項   |        | 出席者紹介<br>● 活動状況報告<br>● サービスの質の向上にかかる事項<br>● その他、意見交換 |  |                         |  |

次第

出席者：別添資料（スライド⑮）に本日出席の構成メンバーを記載。

第 3 回会議の開催にあたり、スライド⑮に記載された出席構成者名簿について、当該名簿が個人情報に該当する旨が事務局より説明された。併せて、名簿の取り扱いに際しては、目的外利用の禁止や外部への持ち出し・漏えい防止など、適切な管理を行うよう注意喚起がなされた。

・ 地域着型特別養護老人ホームわかばの活動状況報告

1. 活動状況報告（スライド③～⑥）

令和 8 年 4 月～令和 8 年 7 月度までの活動状況について期間となる 6 月度ならびに 7 月度の活動報告が行われた。

・ 男女別稼働件数推移

6 月度は入退所に伴う空床が延べ 2 7 日計上となり 9 6.9 %の稼働率。

7 月度は昨年 1 2 月以来の満床稼働で終えている。

・ ユニット別稼働件数推移

6 月度は B ユニットならびに C ユニットにおいてお客様の入れ替わりがあり、入退空所が発生。

・ 要介護度別利用者数推移

7 月度末時点におけるお客様の要介護度構成について報告が行われた。要介護度 3 が 7

名、要介護度4が14名、要介護度5が8名となる。

- ユニット別平均要介護度、平均年齢

施設全体平均要介護度は4.0(女性：4.0 男性：3.5)。

年齢構成としては80歳代・90歳代のお客様が中心であり、100歳以上のお客様も3名利用されていることが報告された。

- サービスの質の向上にかかる事項

## 2. 人員体制 (スライド⑦)

介護職員に占める介護福祉士の割合(13名中10名=76.9%)。

初任者研修修了者3名となり、介護職員における無資格職員は0名。

なお、当施設には海外人材が4名在籍しており、内訳は、中国人留学生1名、ベトナム出身の特定技能介護職員2名、インドネシア出身の特定技能介護職員1名。

多様な人材が活躍できる職場環境づくりを進めながら、介護サービスの質の向上に取り組んでいる。

## 3. 事業所の取組み (スライド⑧)

- 嘱託医の往診 2回/月 (隔週(第1・3)月曜日)
- 理美容サービス 1回/月 (不定期で追加日程を設けている)
- セブンミール 2回/月 (第2・第4木曜日) 開催
- (密着型サービス) 集団指導 6/25開催
- カスタマーハラスメント対策セミナー 6/25開催
- リーダー会議、部門会議(職員会議)など毎月の定期開催と議事録共有は書面で回覧。  
毎月の月次部門(職員)会議やユニット会議を通じて不適切なケアを含む該当事案がないことを確認されていることが報告された。また、やむを得ない事情の場合の手順や対応についても継続確認を行っていることも報告された。

## 4. 職員研修状況 (スライド⑨)

令和8年度の研修実施状況について、報告。

※なお、研修に参加できない職員は全員レジュメに沿ったレポート提出を義務付ける。

## 5. 苦情、事故、ヒヤリハットについて (スライド⑩～⑬)

- ヒヤリハット報告  
配布資料の通り。通期累計報告件数としては33件。
- 事故報告  
配布資料の通り。通期累計報告件数として16件。
- 苦情に関して、施設やケアに対する苦情の受付や相談はなし。
- ヒヤリハット分類 (通期)  
内訳：転倒と外傷が12.5%、次いで転落・その他が9.4%。  
普段車いす自乗のお客様が居室内の短距離移動は杖歩行が動きやすいとの判断から杖

歩行されていた。

➡入居間もないお客様の生活パターン把握不足が要因。離床センサー活用により生活リズムを把握し再発防止を図る。

- 事故分類（通期）

内訳：外傷 31.3%、次いで転倒 25.0%、転落・誤飲が 18.8%。

- 転倒事案として、コール応答で訪室した際、床に長坐位でいるところを発見。外傷・痛みの訴えは聞かれなかったが、パジャマの下衣の裾が車いすのフットレストに引っ掛かり、直そうとしたところベッドから床にスベリ落ちた。

就寝前、処方された眠剤を服用しており、日中と比べ動きが緩慢であったこと、夜間の為、周囲が見えにくい状況であった。

➡特に夜間の視認性低下や眠剤服用の影響が考えられ、ナースコール後に介助のもとでの移乗をお伝えする。

また、起き上がりの行動の変化や環境要因も考えられ、離床センサー活用と生活状況の把握を継続しており、以後同様の事案は発生していない。

- 参加者からの意見・ご提案等について、

（ご家族様代表）

夫には事故なく安全に過ごしてほしい。

施設での生活の中で、楽しみや生きがいを感じながら利用できる環境づくりを期待しています。

（市基幹包括支援センター職員）

認知症（9/25）フェアの開催案内。

ヒヤリハットや事故報告の件数は、件数だけ聞くと増加しているように思うが、事故の未然防止やリスクの早期発見を目的として、予知・予測の観点から積極的に報告が行われている結果と考えられる。

（地域住民代表）

特段の意見なし。

（第三者委員）

以前、家族が施設を利用していた際、わずかな接触でも青あざができることがあり、そのような事例でも報告対象となるため、職員の負担は大きいと感じる。

また、地域で、施設名や企業名の入った社用車がパチンコ店やナイスアリーナ周辺に停まっているのを見かけることがある。

報告にあったが、カスタマーハラスメントを規程化した目的について、質問。

⇒社会福祉法人や介護事業所などにおいて、2026年10月1日からカスタマーハラスメント対策が法的義務となります。ご利用されるお客様やご家族からの暴言、威圧的な言動、過度な要求などから職員を守り、安全で働きやすい職場環境を確保するため、カスハラ定義や対応方法、

相談体制等を規程に定めることが求められていることから整備した。

次回の開催予定月は偶数月の10月度の開催として調整。